

2008-2009 活動実績ダイジェスト

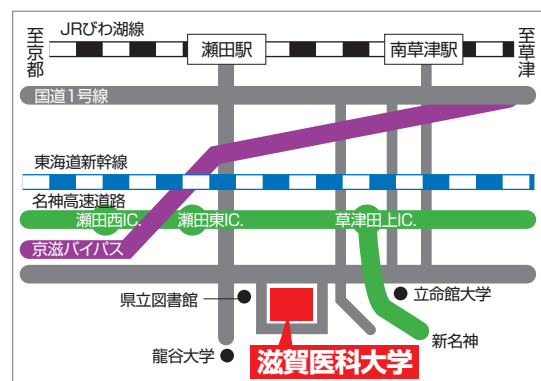
著者	滋賀医科大学企画調整室
発行年	2009-12
その他の言語のタイトル	ACTIVITY DIGEST 2008-2009
URL	http://hdl.handle.net/10422/2274



<http://www.shiga-med.ac.jp/>

ACTIVITY DIGEST 2008-2009

活動実績ダイジェスト 2008-2009



- JR瀬田駅から「滋賀医大」行きバスにて約15分
「医大西門前」又は「大学病院前」下車
- 名神高速道路「草津田上IC」から約5分

ご意見等の 連絡先

本学では、地域の皆様からのご意見等を今後の大学運営に活用させていただければと考えています。
お気づきの点等がございましたら、下記連絡先までお寄せ下さいますよう、よろしくお願いいたします。

滋賀医科大学 企画調整室

T E L ● 077-548-2011
E-mail ● hqkikaku@belle.shiga-med.ac.jp
住 所 ● 〒520-2192 大津市瀬田月輪町



国立大学法人

滋賀医科大学

滋賀医科大学のこの1年

'08
4

- リハビリテーション科の開設
- 入学宣誓式、大学院入学宣誓式



入学宣誓式

10

- 開院30周年記念事業
- 滋賀短期大学と包括協定締結
- BioJapan2008に「日本初!次世代手術システム」を出展
- 解剖体慰霊式
- 若鮎祭(学園祭)



開院30周年記念事業

5

- 浜松医科大学との交流会
- 解剖体納骨慰霊法要



浜松医大交流会

11

- 研究動物慰霊式
- 滋賀県がん診療高度中核拠点病院に指定
- プライマリケア医対象ワークショップ「琵琶湖プライマリケア・リフレッシュコース」を開催



プライマリケア医対象ワークショップ

6

- 感染制御部の設置
- 回復期リハビリテーション病棟を開設
- ホーチミン医科薬科大学と学術交流協定を締結



回復期リハビリテーション

12

- 留学生等バス研修旅行
- 全学フォーラムを開催



全学フォーラム

7

- 患者支援センターの設置
- 膳所高校と高大連携事業協定を締結
- 関連病院長会議
- 虎姫高校と高大連携事業協定を締結
- オープンキャンパス(医学科)



高大連携事業協定締結

'09
1

- 留学生との交流会「国際交流のタベ」



留学生との交流会

8

- オープンキャンパス(看護学科)



オープンキャンパス

2

- 学外有識者会議
- 個別学力試験(前期日程)



学外有識者会議

9

- 地域「里親」学生支援プログラムの宿泊研修を実施
- 「イノベーションジャパン2008」に出展
- 長浜バイオ大学と「戦略的大学連携支援事業の共同実施に関する協定」を締結



イノベーションジャパン2008

3

- 留学生等バス研修旅行
- 「都市エリア産学官連携促進事業(発展型)成果報告会」を開催
- 学位授与式、卒業式
- 附属病院に新厨房が完成



都市エリア産学官連携促進事業(発展型)成果報告会

滋賀医科大学の理念

滋賀医科大学は、地域の特徴を生かしつつ、
特色ある医学・看護学の教育・研究により、
信頼される医療人を育成すること、
さらに、世界に情報を発信する研究者を養成することにより、
人類の健康、医療、福祉の向上と発展に貢献する。

教育理念

豊かな教養と高い専門的知識及び技能を授けるとともに、
確固たる倫理観を備え、科学的探究心を有する医療人及び研究者を養成する。

教育目標

- 1 課題探求、問題解決型学習を通して、適切な判断力と考察する能力を養う。
- 2 豊かな教養を身につけ、医療人としての高い倫理観を養う。
- 3 コミュニケーション能力を持ち、チーム医療を実践する協調性を培う。
- 4 参加型臨床（臨地）実習を通して、基本的な臨床能力を習得する。
- 5 国際交流に参加しうる幅広い視野と能力を身につける。

滋賀医科大学の使命

滋賀医科大学は、幅広い教養と医学及び看護学の
それぞれの領域に関する高い専門的知識及び技能を授けるとともに、
確固たる倫理観を備え、有能にして旺盛な探求心を有する人材を
育成することを目的とし、もって医学及び看護学の進歩、発展に寄与し、
併せて社会の福祉に貢献することを使命とする。
（滋賀医科大学学則第1条より抜粋）

教育

－良医を育て、名医が羽ばたく－

中期計画に掲げた国家試験合格率の目標値を達成することができました。

平成19年度で終了した「一般市民参加型全人的医療教育プログラム」の成果を継承し「全人的医療体験学習」を正規科目に取り入れ、引き続き人を診る医師の育成を行っていきます。

本学と長浜バイオ大学が連携する「びわこバイオ医療大学間連携戦略」が採択され、バイオサイエンスと医学・看護学の融合した新しいバイオ医療学の創設を目指します。

国家試験合格率 目標達成

きめ細かい支援で良好な国家試験合格率を維持

国家試験ごとに合格目標値を定め、アドバイザー制度や補講を行うとともに、各講座に国家試験担当教員を配置するなど支援を行った結果、今年度も高い合格率を維持することができました。

医師・保健師・助産師においては、新卒者全員が見事合格を果たしました！

医師国家試験
合格率
全国6位

国家試験区分	医 師	看護師	保健師	助産師
目標値	95%以上	98%以上	95%以上	—
平成21年度合格率	97.0%	98.3%	100%	100%
全国平均	91.0%	89.9%	97.7%	99.9%

医師不足対策として入学定員を増員

医学科入学定員の見直し

平成21年度より、医学科の入学定員を10名増員しました。そのうちの5名については、医師の地域定着への対策として、卒業後、県内病院で勤務することを条件として、滋賀県より奨学金が貸与されます。

医学科入学定員にまつわる年表

	国の施策など	滋賀医科大学 ①
平成16年	卒後新研修システムスタート	
平成17年	医師不足全国的に深刻な問題に… ②	
平成18年	新医師確保総合対策	
平成19年	緊急医師確保対策	
平成20年	経済財政改革の基本方針2008	

平成21年度入学定員

5名増決定（計105名）

5名増決定（計110名）

滋賀県奨学金枠

卒業後、県内病院に
勤務することを条件に
奨学金が貸与される

人を診る医師となるための体験学習

●全人的医療体験学習を正規科目に採用

全人的医療を実現できる医師の育成を目指し実施してきた「一般市民参加型全人的医療教育プログラム」は、採択期間が平成19年度で終了しましたが、その成果を継承するため、「全人的医療体験学習」として正規科目に採用したところ、多くの学生が履修し患者訪問実習を行いました。

- 患者さんの生の声というのは、すごく心に響いてくるし、学ばせてもらうことが一言一言に含まれていると感じました。
- 今回の訪問で担当医の先生がすごく頼りにされていることがわかりました。人柄の大切さ、地域医療の大切さをじかに知ることができました。

学生の感想

- 礼儀正しく誠意をもって患者、家族に接していただきました。根気よく相手になって、何かを汲み取ろうとする態度も自然で感心しました。自主的に取り組もうとする意欲が感じられました。

診療所の先生の感想

- いつも明るく、家族には優しく励ましていただき、患者には優しく、帰りに握手をして一言さよならと声をかけていただきました。うれしかったです。

患者さん＆ご家族の感想

※本プログラムは、平成17～19年度の文部科学省の「地域医療等社会的ニーズに対応した医療人教育支援プログラム（医療人GP）」の支援を受けたものです。

地域とともに学生支援の充実を目指す

●里親・プチ里親による助言体制を確立

本学では、平成19年度より、地域「里親」による学生支援プログラムを実施しています。地域の医師・看護師・保健師・助産師の方々に「里親」として、また、地域に暮らす住民の方々に「プチ里親」として協力いただき、学生との宿泊研修や交流会・FD研修会を実施しました。

■宿泊研修日程

1日目

[平成21年2月20日(金)]

- 大津赤十字病院を見学
- 「三井寺」を拝観
- 公立高島総合病院を訪問
- 朽木の特別擁護老人ホーム「やまゆりの里」と朽木診療所を訪問
- 里親の先生、高島市職員、保健師や看護師の方々との交流懇談会

朽木診療所にて



本取組は新聞で紹介されました
2008年11月24日京都新聞記事
(掲載許諾済)

2日目

[平成21年2月21日(土)]

- 「興聖寺」を訪問
- まつもと整形外科を訪問
- 新旭町「針江 生水の郷」で「かばた」を見学など

まつもと整形外科にて



コラム かばた

町の水路が家の洗い場につながっており、澄んだ湧き水を人が生活のために利用している。



※本プログラムは、平成19年度「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム」に採用されました。

授業形態を工夫、より実践的な学習

●シミュレータ教材を活用した体験型授業の実施

臨床技能の向上のため、臨床実習や助産師課程の演習において、シミュレータ教材を活用した体験型授業を実施しています。また、医学科臨床実習開始1年後には、アドバンスOSCEを実施し、臨床技能の確認を行い、その結果を学生にフィードバックしました。

※アドバンスOSCEとは、1年間の臨床実習を終えた学生の臨床技能を評価する試験です。



医学科臨床実習



助産師課程実習

バイオ医療学に関する人材育成

●びわこバイオ医療大学間連携戦略プログラムの実施

本学の「医学」と長浜バイオ大学の「バイオテクノロジー」というそれぞれの得意分野を生かして新しい教育・研究分野の創設を目指しています。

連携授業・実習を行い、バイオの先端知識と病気や体の仕組みを理解した人材育成を共同で実施していきます。

平成21年度には、長浜バイオ大学修士課程修了者が、本学博士課程に進学しました。



本取組は新聞で紹介されました
2008年9月13日京都新聞記事
(掲載許諾済)

それぞれの大学の特性を生かした授業を提供しています



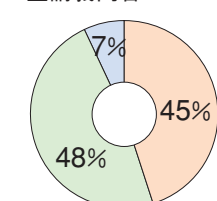
滋賀医科大学での解剖見学



長浜バイオ大学教員によるバイオインフォマティクス授業

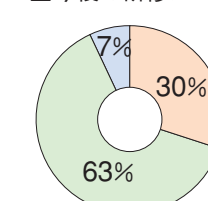
学生への連携授業アンケート(抜粋)

■講義内容



- 大変良かった
- 良かった
- どちらともいえない

■今後の研修についての希望



- もっと専門的な方がよい
- 今回程度でよい
- もっと分かりやすい方がよい

学生アンケートでは、他学科の知識に触れることで新たな勉学意欲が引き出されるという結果がでており、それを受け、今後は新たな教材を開発し、授業を展開する予定です。

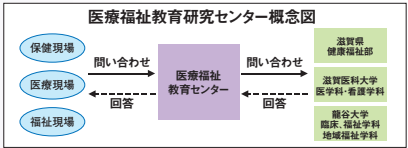
※バイオインフォマティクスとはスーパーコンピュータを駆使して膨大な遺伝子情報を解析し、病気の診断・治療に役立てるなど、情報学や応用数学、コンピュータ科学などを応用して、医学・生物学に取り組む学問領域であり、生命情報科学とも称される。

※本プログラムは、平成20年度文部科学省の「戦略的大学連携支援事業」に採択されました。

「何でもできる大学」ではなく、「何かができる大学」を目指し、本学の特徴を生かせる5項目の重点プロジェクト、国際的にも注目される研究を推進しました。また、アルツハイマー病のMR画像診断薬に関する新規特許申請、新型インフルエンザウイルスについての国際共同研究の成果がNature誌に掲載されるなど、多数の学術的成果が得られました。

特徴を生かせる研究を重点的に

●重点プロジェクトの推進

サルを用いた医学研究 <small>鳥インフルエンザワクチンの開発、再生医療への応用に向けて</small>	<ul style="list-style-type: none"> ◎人獣共通感染症克服のための包括的研究開発（文部科学省）を推進 ◎カニクイザル・テラーメードES細胞を用いた移植医療モデルシステムの構築 <ul style="list-style-type: none"> →科学研究費補助金基盤研究（B）および（C）を獲得 ◎サルiPS細胞の樹立と自家移植による安全性の評価 <ul style="list-style-type: none"> →科学技術振興機構 山中iPS細胞特別プロジェクトに採択 
核磁気共鳴（MR）医学 <small>体への負担が少ない治療（低侵襲治療）を目指して</small>	<ul style="list-style-type: none"> ◎MR画像による生体内標識幹細胞の無侵襲追跡技術と再生医療への応用 ◎患者負担軽減のためのオンサイト診療システムの開発（文部科学省 都市エリア産学官連携促進事業（発展型）） ◎マイクロ波応用手術支援機器と手術システムの臨床応用（科学技術振興機構 大学発ベンチャー創出事業） 
神経難病研究 <small>アルツハイマー病・神経難病の早期発見・治療を目指して</small>	<ul style="list-style-type: none"> ◎アルツハイマー病の新規MR画像診断薬の開発（科学技術振興機構 JST育成研究事業） ◎ガンマーセレクターゼ阻害薬・修飾薬開発のための新たなターゲットの開発（医薬基盤研究所 受託研究費） ◎脳内金属イオン濃度測定法の研究開発 <ul style="list-style-type: none"> →NEDO 知的基盤研究開発事業に採択 
生活習慣病医学 <small>動脈硬化症・メタボリックシンドロームなどの予防のために</small>	<ul style="list-style-type: none"> ◎日米3集団の潜在性動脈硬化症危険因子に関する国際疫学共同研究→科学研究費補助金基盤研究（A）を獲得 ◎大規模コホート共同研究による生活習慣病発症データベース構築とその高度利用に関する研究 <ul style="list-style-type: none"> →厚生労働科学研究費補助金を獲得 ◎食生活・栄養摂取状況が高齢者の健康寿命に与える影響に関する研究 <ul style="list-style-type: none"> →厚生労働科学研究費補助金を獲得 
地域医療支援研究 <small>保健・医療・福祉・教育の連携を促進</small>	<ul style="list-style-type: none"> ◎在宅医療に関する小児の地域医療システムの構築に関する研究 <ul style="list-style-type: none"> →科学研究費補助金基盤研究（C）を獲得 

研究成果を社会に還元

●産学官・地域との連携研究

本学・滋賀県・立命館大学・しが医工連携ものづくりネットワークの複数地域中核企業が共同する「しが医工連携ものづくり産学官連携拠点」が、文部科学省・経済産業省が共同で実施する平成21年度「地域中核産学官連携拠点」に採択されました。今後、本拠点を中心に、「オンサイト診療システム」や「マイクロ体内ロボット」の開発等に取り組んでいきます。

「オンサイト診療システム」とは？

「悪性腫瘍の発見と患部の特定」、「悪性度の測定・判断」、「腫瘍の切除・摘出」等、一連の治療を手術現場（オンサイト）で迅速に行えるシステムです。患者さんの身体的負担の軽減と術後のQOL（生活の質）の向上を実現することができます。

「マイクロ体内ロボット」とは？

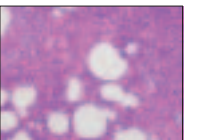
腫瘍の切除や摘出に用いる体腔鏡手術ロボットで、従来の体腔鏡手術では、届かなかった部位にできた腫瘍も摘出することが可能になります。



研究成果を科学誌ネイチャーに発表

●新型インフルエンザウイルスの研究成果

H1N1新型（豚）インフルエンザウイルスの研究において、本学病理学講座（疾患制御病理学部門）では、東京大学医科学研究所河岡教授のグループと共同でカニクイザルを使用した感染実験を担当しました。その結果、新型インフルエンザウイルスはH1N1季節性インフルエンザウイルスに比べてカニクイザルの肺での増殖性が強いことが明らかになりました。多くの人が新型インフルエンザウイルスに対する免疫がないことと考え合わせると、第二波の流行に備える必要性が示されたこととなります。この内容が、科学誌Natureに掲載されました。



※科学誌Natureの主要な読者は世界中の研究者で、雑誌の記事の多くは学術論文が占る。インパクトファクターが極めて高く、これらに掲載されることは研究者にとって非常に名誉なことである。

新型インフルエンザウイルスによる肺炎

独創的な研究の推進

●若手研究者による独創的な研究を支援

若手研究者を対象とした公募により選定された研究に対し、学長裁量経費で研究助成を行い、若手研究者の独創的な研究を支援しました。平成20年度は、8件の研究が選定されました。

代表的な研究 筋萎縮性側索硬化症の新規原因タンパクTDP43による運動ニューロン死の機序解明についての研究



分子神経科学研究センター
准教授 漆谷 真

筋萎縮性側索硬化症という病気があります。壮年期に突然、全身の筋肉が萎縮して力が入らなくなる病気です。大リーグのルー・ゲーリックの選手生命を奪った病気として有名で、ALSとも呼ばれます。

長らくこの病気の原因は不明でしたが、近年、ALS患者でTDP-43というタンパクが神経に異常に蓄積することが発見されました。この仕組みを明らかにすれば、ALSの治療法が見つかる可能性があります。

この度、TDP-43の蓄積はオートファジー（細胞内の不要なゴミを分解する仕組み）の破綻が関係していること、神経細胞内の「物流」が滞るとTDP-43が本来あるべき場所から消失することを発見しました。

今後、難病ALSの治療を目指し、TDP-43の異常を抑える方法を開発して行きます。

診療

－信頼と満足を追求する全人的医療－

地域中核病院として、質の高い医療の提供と高度医療人の育成に努めました。また、患者サービスの向上を図るとともに、日本医療機能評価機構の実施する病院機能評価（Ver.5.0）の更新認定を取得しました。

最先端の医療を患者さんに

●先進医療の推進

先進医療とは、最新の医学水準であると厚生労働大臣から承認された医療で、高度な技術を持つ医療スタッフと十分な施設や設備を持つ医療機関だけで行われています。本院では、以下の5件を実施しています。（平成21年11月1日現在）

1 ³¹P-磁気共鳴スペクトロスコピーとケミカルシフト画像による糖尿病性足病変の非侵襲的診断

患者さんの負担の少ない方法で足病変の診断を早期かつ正確に行います。



2 樹状細胞と腫瘍抗原ペプチドを用いたがんワクチン療法

がん細胞を攻撃するリンパ球を増やす働きのある樹状細胞を培養して注射します。本院では肺がん・乳がんが対象疾患です。



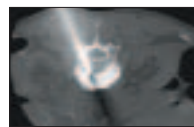
3 HDRA法又はCD-DST法による抗悪性腫瘍感受性試験

患者さんから採取した腫瘍組織を用いて検査し、個々の患者さんに最適な抗がん剤の選択・投与を行います。本院では、消化器がん・乳がん・転移性肝がん・転移性肺がん・がん性胸腹膜炎が対象疾患です。



4 腫瘍性骨病変及び骨粗鬆症に伴う骨脆弱性病変に対する経皮的骨形成術

骨粗鬆症等に対する骨セメント注入治療で、骨の強度を回復させます。



5 超音波骨折治療法

手術が必要な腕や脚の骨折に対して行う治療で、術後微弱な超音波を骨折部位の皮膚の上から当て、回復を早めます。骨がつくまでの期間を約40%短縮できます。



ブレイクタイム

滋賀医科大学医学部附属病院開院30周年記念事業を実施しました。

本学附属病院は、昭和53年10月に開院して以来、平成20年で30周年を迎えました。これを記念して、平成20年10月5日（日）市内ホテルにおいて、開院30周年記念事業（記念式典・記念講演・祝賀会）を実施しました。

当日は雨天にもかかわらず、御来賓、関連病院・地域関係機関の方々、本学諸先輩及び本学教職員等、約300名の御出席をいただき、盛会のうちに終えることができました。

今後も、地域の拠点病院として、皆様方の期待に応えるべく教職員一丸となって努力してまいります。



質の高い医療を提供

●高度専門的心臓血管手術（心拍動下冠動脈手術）の推進

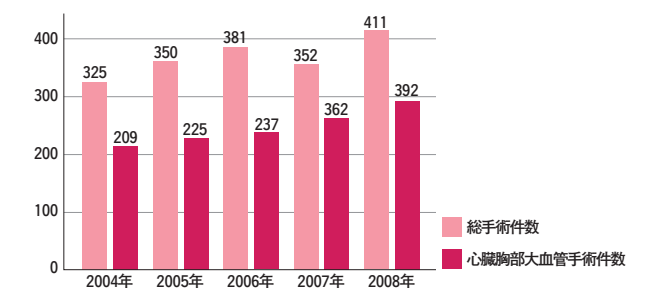
本院の特色である循環器疾患の治療として、冠動脈バイパス手術では、人工心肺を使用しない心拍動下手術（OPCAB）を確実に完成度の高い技術で行い、本格的な低侵襲手術を実施しています。

これまでからだの負担が大きいため手術を勧められなかった患者さんや超高齢者でも手術翌日から歩行、食事が可能になり、1～2週間で退院できる治療法として確立してきました。

また、緊急、重症患者の迅速な受け入れ体制も整えて、手術件数は年々増加しています。



心臓結果外科手術件数



●病院機能評価（Ver.5.0）の更新認定を取得

本院は、平成16年2月の初回認定に引き続き、平成21年5月1日に日本医療機能評価機構の実施する病院機能評価（Ver.5.0）の更新認定を取得しました。

今回の評価によって向上した医療の質のさらなる強化をめざして、引き続き努力を続けてまいります。

※病院機能評価とは、我が国の医療機関の機能の充実・向上を図るために、（財）日本医療機能評価機構が第三者機関として中立的な立場で医療機関の機能を評価するもので、5月1日現在として発表されている認定病院数は、全国8,832病院中2,556病院となっています。

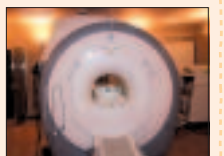
「更新認定証」



NEWS FLASH

最新鋭の3T（テスラ）MRI装置が導入されました。

高度な医療に対応するために、3Tと1.5Tの最新鋭のMRI装置を導入し、3台体制で診療を開始しました。検査時間の大幅な短縮によって、急性期の脳卒中の診断にも力を発揮するだけでなく、微細な病変を捉えることが可能になりました。また、動脈瘤の診断能も向上しています。さらに、神経線維の走行を捉えたり、脳内で生じている代謝変化を捉えることが可能になり、脳脊髄領域の画像診断が飛躍的に向上しました。また、3T-MRイメージングでは、骨関節、乳房、骨盤部においても、高画質の画像によって診断の向上が期待できます。



「滋賀県がん診療高度中核拠点病院」に指定されました。

平成20年11月、「滋賀県がん診療高度中核拠点病院」として指定を受け、総合がん治療学講座を県の寄付講座として開設しました。今後、滋賀県のがん医療の向上のために診療支援、人材育成、県内医療機関への人材支援を実施していきます。がん医療の均点化を目指し、県下の医療機関、患者団体、その他関係団体からなる「滋賀県がん医療連携調整推進協議会」へ参画していきます。

社会貢献・国際交流

－社会に、世界に、オープンスタンス－

本学の知的資源を地域社会等に還元するべく、医科大学の特色を生かした魅力ある教育サービス（公開講座・出前授業・模擬講義等）を企画・実施するとともに、地域中核病院として、地域医療の貢献に努めました。
また、県内高校・大学との連携や交流を強化し、国際的に開かれた大学を目指し、国際交流事業を展開しました。

地域への教育サービスの展開

● 高大連携事業、公開講座、出前授業の実施

- 高校生が医学に関する教育・研究に触れる機会を提供することにより、将来の目標実現に向けて生徒の資質・能力を十分に高めることを目的として、高大連携事業協定を締結している膳所高等学校・虎姫高等学校の生徒を対象に、「生理学」・「社会医学」・「病理学」・「解剖学」・「外科学」・「地域医療の現状と課題」等の講義及び実習を9回実施しました。

- ・医者とは、知識や教養だけでなく相手の心情を読み取ることも大切であることを学んだ。
- ・将来への選択肢が増えた。
- ・実験するだけでなく、実験結果をまとめることが大切であると学んだ。
- ・人体の仕組みは、とても興味深い。

高大連携授業受講 高校生の感想



- 「放射線を使った切らずに治すがんの治療」や「ころばぬ先のつえー滋賀の医療とつえの話」などのテーマで公開講座を22回開催し、受講者数は1,617名でした。

- 県内の小中高高校生を対象に18回（小学校14回、中学校2回、高校2回）の出前授業を行いました。



公開講座

出前授業
小学生の感想

- ・面白かったので、またやってほしい。
- ・とても面白く聞けた。今度は、質問タイムをつくって欲しい。
- ・本物の写真とか見てドキッとしたが、わかりやすかった。

教育研究をグローバルに展開

● 国際交流の促進

- 平成20年11月にミシガン州立大学連合日本センターとの交流協定を締結しました。

平成21年6月と8月には、ミシガン州立大の学生が実地研修学生として看護学科の講義と附属病院での研修を受けました。

附属病院研修では、日本とアメリカの文化の相違及び看護体制についてより具体的に学べるよう、看護部における実務も見学しました。

- 平成21年5月には東北大学（中国）と学術交流のための協約書を取り交わしました。

これは、「びわこバイオ大学間連携」の一環である、長浜バイオ大学・東北大学・本学の三姉妹協定であり、連続性のある大学院教育を目指したものです。

ミシガン州立大の実地研修学生



業務改善

－環境に優しい大学を目指して－

本学では、事務部門を中心に業務の電子化による業務改善や効率化の取組を行い、ペーパーレス化（紙の使用枚数の削減）を推進しています。
また、省エネルギー対策や温室効果ガス排出削減にも取り組み、環境に優しい大学を目指しています。

目標値を定めペーパーレス化を実現

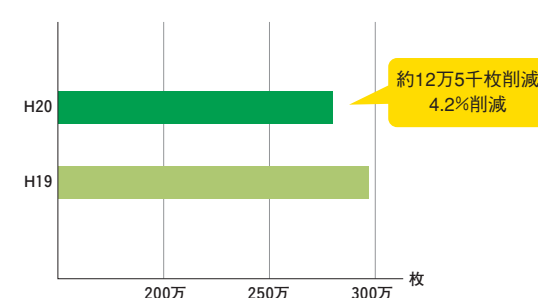
● 事務職員による業務電子化プロジェクトの実施

平成19年度より、経営担当理事と情報マネージャー（事務部各課の若手職員）とのヒアリングを定期的に行いながら、業務の電子化・ペーパーレス化に取り組んできました。
その結果、平成20年度のコピー機使用枚数は、平成19年度と比較して125,089枚削減、削減率4.2%となり、目標値の前年度比－1%を大きく上回ることができました。

ペーパーレス化の主な取組

- プロジェクター投影によるスクリーン会議で配付資料を削減
→ 27会議で70,943枚削減、削減率55.91%
- コピー枚数削減の目標値を定め、コピー機に掲示
- 両面印刷、2アップ印刷、ミスコピーの再利用の推奨
- 通知文書等の回覧にメールを活用
- 入札情報をHP上に掲載して入札を電子化
- アンケートをWEBで実施
- 独自開発のシステムなどを活用し、WEB上で情報共有

事務部門 年間 紙使用枚数



小さな大学の大きな省エネ

● 学内ESCO事業の実施

本学では省エネルギー対策の取組として、平成18年度から「学内ESCO事業」を展開しています。「学内ESCO事業」とは外部ESCO事業者による導入に代えて、本学のシステム及び運用に沿った省エネルギー対策を運用資金によって実施し、光熱水費の削減を図るものです。

平成20年度は、「学内ESCO事業」の取組事例を推進した結果、42,333千円のコスト削減を図ることができました。今後も削減できた予算でさらなる省エネ事業を計画・実施していきます。

主な取組事例

- 蒸気配管放熱対策
- ボイラ給気用送風機回転制御
- 空調インバーター制御
- 節水型便器の設置
- 照明器具の設置
- 白熱電球の交換
- 外灯灯具の交換
- 蒸気バルブの保温対策

※ESCOとは
Energy Service Companyの略。工場や事務所、オフィスビルや商業施設、公的施設などに対して、エネルギー効率の改善策を提案、コスト削減効果を保証し、削減したエネルギーコストから報酬を得る事業。

ブレイクタイム

「もったいない見回り隊」による学内・院内巡回を行っています。不在時、休憩時間等の部屋の消灯や適正な冷暖房温度設定を徹底するため「もったいない委員」による学内及び院内の巡回を行っています。併せて、学内各所（電源スイッチ付近）に節電を促すシール・冷暖房の設定温度に関するシールを貼付しました。



節電シール



冷暖房シール



もったいない見回り隊による学内巡回

病院再開発Information

平成21年5月A病棟の改修工事が終了し、母子・女性診療科病棟、小児科病棟の移転が完了しました。
母子・女性診療科病棟は、患者アメニティーの改善が図られ、より安全かつ快適にお産をしていただける環境となりました。

小児科病棟は、NICU（新生児特定集中治療室）とGCU（新生児回復室）の増床が図られ、安全管理や感染対策等に十分配慮された施設に生まれ変わりました。
また、廊下の天井・壁・壁面などにイメージ（絵）が描かれ、「暖かさ」を持った空間となっています。

平成21年10月完成の新手術棟には、最新設備を備えた手術室6室が増室され、更に地域の中核医療機関としての役割を果たしていきます。

小児科病棟



NICU（新生児回復室）



新手術棟 手術室

[病院再開発スケジュール]

H19.08 新(D)病棟 完成
H20.06 C病棟改修 完了

H21.05 A病棟改修 完了
H21.10 B病棟改修 完了
H21.10 新手術棟 完成
H21.12～H23.07 手術棟改修

H21.12～H24.03 中央診療棟改修
外来診療棟改修



評価結果

文部科学省国立大学法人評価委員会による評価結果（平成20年度）

本学が提出した「業務の実績に関する報告書」に基づき、国立大学法人評価委員会が評価を行ったものです。業務運営、財務内容、自己点検・評価、その他（業務運営に関する重要事項）については5段階で、教育研究等については各大学の特色ある取り組みが記述式で評価されます。
本学の評価は以下のとおりとなりました。

5段階評価の結果

①業務運営の改善及び効率化	4（順調に進んでいる）
②財務内容の改善	4（順調に進んでいる）
③自己点検・評価及び情報提供	5（特筆すべき進捗状況にある）
④その他業務運営に関する重要事項	4（順調に進んでいる）

教育研究等についての評価（注目される事項として評価された取組）

- 平成21年度入学者から、医学科学生の入学定員を増員するとともに、滋賀県より奨学金が貸与され、**医師の定着策**が図られている。
- 臨床実習・アドバンスOSCEの実施・スキルズラボのシミュレータ活用により、**学生の身体診察技能・急性期重症患者処理能力・救急蘇生能力の向上**に取り組んでいる。
- 里親（医師・看護師）と学生とのマッチングにより、**地域（里親）による学生支援プログラムを継続して実施し、学生が地域医療を実体験**している。
- 副学長をトップとする**研究活動推進室を中心に、5重点領域分野の中間評価を行い、その結果を公表**している。
- 早い段階で医学・看護学を身近に感じてもらえるように、**県内高等学校との間に高大連携協定を行い、授業を行う**とともに、県内小中高校生を対象とした**出前授業を実施**している。
- 大学病院連携型高度医療人養成推進事業（コア生涯学習型高度専門医養成プログラム）**により、高度シミュレータの整備、スキルズラボの充実を図っている。
- 産科オープンシステムを維持**し、ハイリスク妊娠症例を多く受け入れており、新生児医療においても、**新生児集中治療室（NICU）では、94.1%の稼働率を維持**し、さらに地域医療機関との連携による小児救急医療も充実させ、**地域医療に貢献**している。
- 医師不足に陥っている東近江地区の病院に、**新たに内科医4名を派遣**し、内科の入院受入や夜間救急医療の再開につなげるなど、**地域医療に貢献**している。
- 外来カルテの電子化の実現、手術オーダーリングシステムの導入による手術スケジュール調整の合理化等、**効率的な病院運営**に取り組んでいる。

皆さまからの声

医師不足といわれるこの世の中、地域中核病院としての努力をされている。

滋賀医大で取り組んでおられる内容が見えてきた。

国立大学法人に移行され慣れてこられたのか、医師を初めとして関係者の対応が患者優先になってきた。ありがたい。

（昨年度の本誌アンケートはがきより）